

2019年 新年の干支 「己亥 (つちのとい・きがい)」に思う

新芽の息吹、新たな胎動の始まりを示唆する年！！

2020年からの大変革期に向けて備えの年に！！

株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役社長 西 垣 洋 一

新年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中はあすなる会の皆様には、格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

2018年を振り返りますと、米国を中心に世界景気は堅調に推移したものの、米中貿易戦争の激化、混迷を深めるブレクジット(英国のEU離脱)、中東問題など不透明感が強まる中、年末には世界的な株安連鎖が起こり、大規模な金融緩和からの脱却は、様々な困難が伴う「ナローパス(狭い道)」であることを突きつけました。又日本では、今年の漢字に「災」が選ばれるなど、地震・豪雨・台風・記録的な猛暑など大規模自然災害が多発、私たちの生活に多大な影響を及ぼし、又、企業活動においても工場が操業停止に追い込まれるなど、リスクに対する備え、BCP(事業継続計画)の必要性が痛感される年でした。

2019年の干支「己亥(つちのとい)」によると、本年は、今年の干支「戊戌(つちのえいぬ)」の年に極致に達した拡大が、ピークアウトから収縮に向かう可能性を示し、特に「己」と「亥」の相克(そうこく)の関係は、様々な障害や困難を表し、厚い皮を破って新芽の息吹、新たな胎動の始まりを示唆すると言われています。又「己」は、完成した自己や成熟した組織が、それまでの主義・規律・秩序などを見直し、次の段階を目指す準備をする年、「亥」は、個人は知識を増やし、精神を育て、組織は人材育成や設備投資、財務基盤を固めるなど内部の充実を心がけると良いように思われます。2019年は、天皇陛下の退位、新天皇の即位、新元号への改元、10月には10%への消費増税も予定されています

木材 住宅業界においては、まずは次の増税がない限り、最後の需要の盛り上がりとなる本年のスタートを、的確に対応することが肝要となります。そして木材需要の柱であった新設住宅着工数の中長期的な減少が避けられない中であって、新たな「需要創造」と「顧客創造」に向け、第1歩を踏み出す年となります。それが①非住宅の中大型建築物の木造化・木質化の推進であり、②ストック住宅流通や空き家住宅対策、リフォームによる需要創造になります。

又、社内体制の再構築も早急に進める必要があります。時代の命題である「働き方改革」も然りです。「働き方改革」の真の目的とは、多様な人材が働きがいを感じながら生き生きと働くことのできる環境を整え、業務の効率化等を通じて仕事の付加価値を高め、生産性の向上やイノベーション(革新)の創出を実現することです。その為には、①企業の視点(経営の安定・持続的成長)②顧客の視点(サポート体制構築)③個人の視点(生活の安定や充実・自己実現)の3つの視点で捉え、経営を改革し、社員満足を高めつつ、永続的に発展・成長し続ける企業体を構築していかなければなりません。

当社はこれからも、新たな「需要創造」と「顧客創造」に向け、お役立ちを図り、皆様のファースト・コール・カンパニーとして、皆様とともに歩んで参る所存です。本年も変わらぬ御愛顧の程宜しくお願い致します。最後になりますが、皆様のご健康と事業発展を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

2019年1月吉日

◆干支の智慧

「本年の干支は、「己亥(つちのとい・きがい)」になります。「己」は「己は紀なり、皆定形ありて紀識する」と中国古典にあるように、梢の先の新芽が出てきて「起こる」という意と、糸偏をつけた紀に通じ、紀と同じく「己を正す」ことを本義としています。一方、「亥」は『釈名』に「亥は核である。百物を収蔵す。物皆堅核となる」の意と説明されています。つまり亥は核であって秋の終わりに植物が実となり、堅い種がその実の中に出て来る様子を示し、そしてその種の中にエネルギーが凝縮・蓄積している状態を指します。

即ち、「己亥」の年とは煩雑さが極まり、蔵されたエネルギーがピークに達して、外に発せられる。筋道を通し規律を正して、その爆発的なエネルギーを次なる発展へと繋げる準備の年と言えます。まさに、平成の時代が終わり、次の時代へと移行変わる中で、自社の組織体制を再構築し、来るべき2020年以降の大変革期に備える年と言えるのではないのでしょうか。」



◆干支の格言 (「猪」にちなんだ諺・経営語録)

- ・「呉は封豕(ほうし)長蛇を為し、以て上国を荐食(せんしょく)す」『左氏伝』
封豕は大きな猪、荐食はしきりに荒らすことで、大きな猪と長い蛇は、いずれも欲深い悪者のこと。人間は欲望の塊であるが、欲に輪を重ねた欲深さは考えもので、程々にするがよいという教え。
- ・「一龍一猪(いちりゅういっちょ)」『符読書城南』
一生が勉強であり、向上心に燃え、寸暇を惜しんで自己啓発に努めれば、それをしない人との差が歴然としてくるという意。
- ・「遼東(りょうとう)の豕(いのこ)」『後漢書』
昔、中国の秦の時代に遼東(現在の遼寧省遼河以東の都名)で頭の白い豚の子(中国豚は黒)が生まれ、非常に珍しいので献上しようとして河東へ行ってみると、その豚はすべて白く恥ずかしくなって帰ったという故事。自分が世間知らずのために自分一人で奇異なものと思い込んでいても、他人からみれば少しも珍しくない平凡なものであることが多いから独りよがりをしてはいけないという教え。
- ・「猪を見て矢を矧(は)ぐ」
事が起こってからあわてて対策をたてる愚かなこと。
- ・「天然礫(れき)に猪を打つ」
偶然に飛んで来た石が猪を打ち倒して獲物を得るの意から偶然の幸福、思いがけない幸運にありつくとえ。
- ・「後先見ずの猪武者」
前も後も顧みないで、やたらに突進する無分別な人のたとえ。類義語に猪突猛進。